

平成 27 年度 在宅ケアマインド養成の進捗状況（必修科目）

| 学年 | 科目名 | 強化の実績 |
|-------|------------|--|
| 一年次前期 | 看護学原論 | 看護の対象としての人間一家族、地域の講義として、「看護の対象としての家族および組織・地域」、「個人が在宅・地域で暮らす意義」などである。 |
| | 健康生活援助論 | 生活環境の演習において、環境を整えることは在宅においても重要なケアであること、排泄援助の講義・演習では在宅でも実施できる方法について説明した。 |
| | 看護早期体験実習 | 外来を受診する患者は、入院中の患者とは異なり、在宅で療養中の患者であることを認識し、コミュニケーションにより在宅（地域）での生活の状況を学ぶことも説明した。 |
| 一年次後期 | 生涯人間発達学 | 小児の成長発達における、環境との相互作用や母子関係に関する内容の充実をはかった。 |
| | 看護学方法論演習Ⅰ | 看護過程では在宅で生活する大学生の紙上事例についてグループワークを行った。また、バイタルサインの授業においては、対象者の状況にあった測定器具の選択・説明をした。 |
| | 生活援助技術実習Ⅰ | 洗髪、清拭の演習において、在宅でも実施できる方法について説明した。 |
| 二年次前期 | 生活援助技術実習Ⅱ | 感染予防、排泄（導尿・浣腸）、吸引・吸入の講義時に、医療施設だけではなく、在宅においても実施されるケアであることを説明した。 |
| | 看護学方法論演習Ⅱ | ヘルスアセスメント、フィジカルアセスメントにおいて、その活用場として、医師が不在である在宅においては重要であることを説明した。 |
| | 基礎看護学実習 | 患者が入院する前や退院後の生活について、意識して情報収集を行うよう促した。特に、受け持ち患者の退院後の生活環境の情報を把握した上で、どのような日常生活援助が必要であるか考えるように促した。 |
| | 成人・老年看護学総論 | 成人・老年期にある人々の健康問題と生活の関係や保健・福祉・看護の機能についてより具体的に概説した。老年では、疑似体験やライフレビューについても地域で生活している高齢者を意識して学習の統合を図った。 |
| | 精神看護学総論 | 在宅看護（精神障害者の地域生活支援）に関連する制度・サービス等の説明を詳細に行った。 |
| | 母子看護学総論 | 従来の内容に加え、母性看護の概要についての内容について対象者の暮らしを据えた母性看護の実践を紹介するなどして充実を図った。 |
| | 地域看護学総論 | 従来の内容に加え、推進員や、ボランティアなど在宅ケアに関わり地域で活動している人をゲスト講師に迎え充実を図った。 |
| 二年次後期 | 成人看護学方法論Ⅰ | 従来の内容に加え、外来通院、退院支援、生活とセルフマネジメントに関する内容、具体的な事例を入れ充実を図った。 |
| | 成人看護学方法論Ⅱ | 従来の内容に加え、退院支援に関する内容について、具体的な事例を入れるなどして、充実を図った。 |
| | 老年看護学方法論 | 対象は在宅で生活していた、在宅の生活を目指していることを意識できるように、その生活について具体例を示した。 |
| | 母性看護学方法論 | 従来の内容に加え、周産期領域での在宅自宅注射に関する内容を追加し充実を図った。 |
| | 小児看護学方法論 | 小児の在宅ケアに関する講義では、事例や画像での紹介を増やしイメージを持てるようにした。看護外来で活躍する小児看護 CNS による講義を追加した。 |
| | 地域看護学方法論Ⅰ | 療養しながら就業・就学する者への支援、医療や保健福祉が協働した支援が必要な者などの具体的な支援例を提示するようにした。 |
| | 地域看護学方法論Ⅱ | 特に家庭の場で展開する看護の特徴、留意すべき事項、訪問マナーなど基本的な事項を、事例を豊富に活用し解説した。 |
| | 保健医療行政論 | 地域包括ケアシステムなど在宅ケアにシフトしていく施策の動きを伝え、看護職として今後求められる役割を考えさせた。 |
| | 在宅看護学総論 | 病院と在宅生活への継続看護を教授するため、退院支援・指導の演習を強化した。 |

| 学年 | 科目 | 強化の実績 |
|-------|-------------|--|
| 三年次前期 | 看護管理学 | 在宅を含めて、適切な看護を提供するために必要な知識体系としての安全管理、情報管理、医療・看護倫理、リーダーシップなどの総合的なマネジメントについても強化した。 |
| | 成人看護学方法論演習Ⅰ | ペーパーペイシエントを従来の事例内容から、退院支援に関する内容について、具体的な事例を入れるなどして、充実を図った。 |
| | 成人看護学方法論演習Ⅱ | 現行の内容に加えて、退院後の生活においても継続して必要となる技術について教授した。 |
| | 老年看護学方法論演習 | 看護過程の事例の中に老健施設から退所する事例を取り入れた。 |
| | 精神看護学方法論 | 講義内容に、退院支援および地域移行・地域定着支援に関する内容を追加した。退院支援に関しては、病棟の看護師に依頼し、事例を通して支援の実際を説明してもらった。地域移行・地域定着支援に関しては、事業内容に関する講義を増やした。 |
| | 母性看護学方法論演習 | 各期のセルフケア促進の看護を検討する際、どのような生活背景を知る必要があるのか具体例をあげるなど、生活を見据えた看護の観点を意識的に教授した。 |
| | 小児看護学方法論演習 | 在宅 APD の小児の事例、児童発達支援で保育を受ける心疾患児の事例等の紹介を増やした。 |
| | 地域看護学方法論Ⅲ | 難病や精神障害者などの在宅での生活が具体的にイメージできるよう、実際の支援事例を基にした教材を使い工夫した。 |
| | 地域看護学方法論演習Ⅰ | 家庭訪問や健康教育が、在宅で支援を必要とする人々のどのようなニーズに応えうる援助技術なのかを考えさせるように工夫した。 |
| | 在宅看護学方法論 | 在宅や地域で療養される人々やその家族の思いに寄り添えることを目標として退院指導に関する授業内容を増やした。 |
| 三年次後期 | 成人看護学実習Ⅰ | 現行内容の徹底に加え、退院調整を必要とする事例からの学びや重要性をカンファレンス等で教授した。 |
| | 成人看護学実習Ⅱ | 現行内容に加え、術後早期から、機能障害に合わせた退院後の在宅支援の重要性についてカンファレンスを通して指導した。 |
| | 老年看護学実習 | 老健施設からの退所や看取りに向かう利用者に対する看護過程を展開できるよう指導した。また、老人福祉センターでの実習を取り入れ、地域で生活している元気老人や虚弱老人の理解、ケアニーズ、地域包括ケアの意義等を学ぶようにした。 |
| | 精神看護学実習 | 服薬自己管理に関する説明を、学生が薬剤師から聞く機会を作った。また、退院支援会議（多職種連携）が実習期間中に行われた場合、学生が参加させてもらうとともに、参加できなかった場合は、参加した看護師から内容について説明してもらう時間を設けた。 |
| | 母性看護学実習 | 日々の振り返り、カンファレンスなど実習を通して「生活者」を強調し、具体的な事例における生活を見据えた情報収集・看護実践の実際についてディスカッションや助言を行った。 |
| | 小児看護学実習 | 小児看護学実習の最後のカンファレンステーマを「受持ち患児の退院を視野に入れた看護について」に変更した。 |
| | 在宅看護学実習 | 病院と訪問看護との連携における状況理解を一層促し、「つなぐ」意識を強化した。また、学生間での情報共有を強化した。 |
| 四年次 | 看護総合実習 | 領域別の実習要項に在宅の視点や退院支援を踏まえた実習目的・目標が追記され、附属病院の臨床実習においては指導者に在宅マインドの説明とその協力を依頼した。 |